



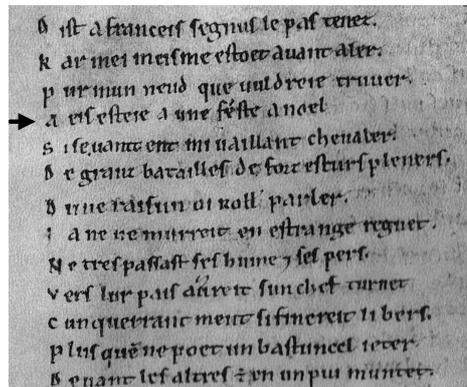
文学を楽しむ前に

小栗栖 等（フランス語・フランス文学）

文学を研究していると言うと、「小説や詩は楽しんで読めばそれで良いのじゃないの？」と言われることがあります。もっともな話です。けれども、楽しむためにはまず読めなくてはなりません。文学作品はさまざまな歴史・地理的環境の中で成立したものですから、読めないことの方が、実は、多いのです。私は、12-13世紀フランスの文学作品を主に研究しています。これらは古フランス語で書かれていますが、フランス人であっても、その言葉を理解することは通常できません。しかも作品は、羊の皮をのばして作った紙に、手で書き写された書物、すなわち写本によって現代に伝わっています。専門家でなければ、読むのはほぼ不可能です。そして専門家であっても、読むのは難しいのです。フランス最古の叙事詩『ロランの歌』の最古の写本



Abbaye de Cluny, Musée d'art et d'archéologie
(撮影：小栗栖)



La Chanson de Roland
reproduction photocopique du
manuscrit Digby 23 de la Bodleian
Library Oxford, Société des Anciens
Textes Français, Paris, 1933.

には、「a eis esteie a une feste a noel」と書かれた箇所があります。「私（カール大帝）は、とある祭日に首都アーヘンにいた」という意味ですが、問題は、どの祭日かです。かつて、一部の研究者はa noelをa Noëlと読み、クリスマスだとしました。けれども現在では、写本通りではなく、anoelと一続きに読み、「年間の重要な祭日の一つの際に」と解するのが普通です。復活祭や五旬祭のことだとするなら、春から夏にかけてですから、「クリスマス」とでは場面の印象が大きく異なることになります。そして、どれを選ぶかは読者が決めることです。研究者は作品を解釈可能な形で提供し、読者の判断の手助けをするに過ぎません。現在では多くの中世フランス文学作品が日本語でも読めるようになっていますが、そこに至る過程には、研究者の地道な仕事の積み重ねがあるのです。

分野・専門紹介-File 54

衆議論評で読む古典

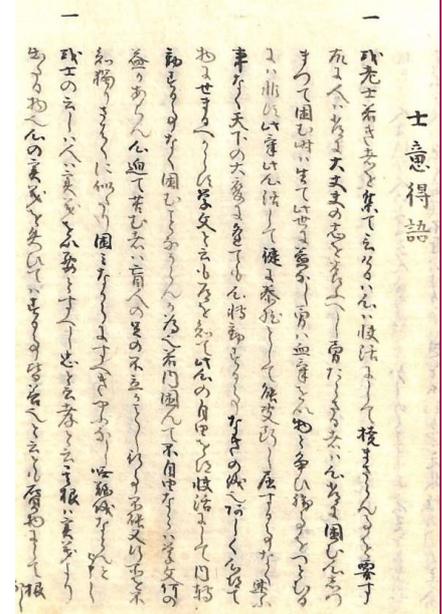
分野・専門名：日本文学

岩瀬文庫の悉皆調査で見た夥しい古書の中で、『八盃豆腐』はひととき印象深い。たとえば、喧嘩の場に行き逢った時、あるいは他家の家来が主人の手討ちから逃れて、自分の屋敷内に逃げ込んできた時、逆に自分の家来を手討ちにし損じた時、などなど難しい局面を具体的に挙げて、侍がどう行動すべきか論じた書だ。江戸時代、武士道を次世代に伝達するために、そんな話題をテーマにして衆議論評する場があったらしい。簡単に答えの出ない問題について、自分ならばどうするか、切実に、かつ具体的に論じ合うことは、たしかに深い理解に至る有効な方法と思われる。そして、これは我々の研究室で行っている古典文学の講読や演習

のやり方に似ている。

古典は解釈の答えが一つでないことが多い。たとえば、西鶴の『好色五人女』。八百屋お七の刑死を知った恋人の吉三郎は、何としても自害しようとする。そこへ、お七の母親が駆けつけ、「(吉三郎の)耳近く寄りて、しばしささやき申されしは、何ごとにかあるやらん、吉三郎、うなづきて『ともかくも』と言へり」とある。話を聞いてすぐに吉三郎は翻心するのに、何をささやいたのか、本文には示されず、読者の想像に任せたような書き方がなされている。このように余白の多い作を理解するには、さまざまな同時代の文献を参照して当時の人々の世界観や行動規範を知り、殊更に書かれた細部に留意しつつ、我が身に引きつけて、なるたけ切実に読むしかない。そういう営みを繰り返すことにより、古人と交信するわざを切磋琢磨すること、それが文学部の重要な使命なのだと思う。

(塩村 耕・教授)



分野・専門紹介-File 55

漢文史料の読解とその魅力

分野・専門名：東洋史学

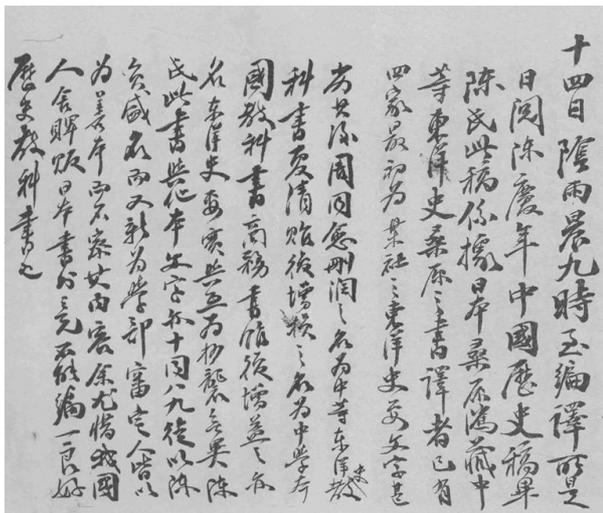
文学部の研究室であれば大抵どこでも、史料というものが重要視されていると思います。東洋史研究、特に中国史を扱う場合で重要であるのは漢文史料を読むことです。東洋史学研究室の演習の授業では、清代の公文書や明代の書物、清末に書かれた日記など中国史の史料を精読する演習の授業があります。そして研究論文の作成に必要な史料を読む力をつけていきます。

演習では高校の授業で習う漢文とは違い、訓点のついていない白文を読んでいくことになります。予習では辞書などを使い引用文の典拠や単語の意味、名前の出てくる人物などを調べます。わからないところは同じ学年の友人や先輩、中国人留学生などと協力します。授業では、順番に書き下しと訳を発表し、先生の詳

しい解説を聞きます。史料に登場する語句や関連する文献、時代背景についてなど先生のお話は時に思わぬところまで話が広がり、たまに笑いが起こることもあります。留学生が多いため授業中はよく中国語も飛び交います。

東洋史学専攻の学生でも研究室に入って初めて本格的な漢文の読解をする人がほとんどです。句点もついていない漢文を読むのは、最初はなかなか勝手がわからずに苦労しますが、やっていくうちに少しずつ辞書を引き慣れてきたり読むコツがわかってきたりして自分の成長を感じます。原文の史料にあたり自分たちの力で読み解いていくことは大学の授業ならではの面白さです。

(服部 千夏・学部4年)



最近の文学部

風邪に効く飲み物

名大では学生や教員の文化的背景が多様で、人から聞く風邪の民間療法も様々です。生姜湯、大根を刻んで蜂蜜に浸す、ウィスキーのお湯割りに蜂蜜を混ぜる、あるいは温めたコカ・コーラ…。この季節、暖かくして過ごしましょう。(CN)